

令和6年度第2回 北九州市立美術館協議会議事録（要旨）

名称 令和6年度第2回北九州市立美術館協議会

報告

報告1 文化庁「Innovate MUSEUM 事業」の採択と報告

議事

議題1 会長・副会長選出

議題2 令和7年度の取り組み内容及び評価指標について

開催日時

令和7年3月25日（火） 14時～16時

開催場所

北九州市立美術館本館 アネックス・レクチャールーム

出席者

（会長）菅 章	美術評論家（前大分市美術館館長）
（副会長）森山 秀子	久留米市美術館副館長
（委員）松崎 功二	八幡中央高校教諭
原田 美紀	原田・川原法律事務所弁護士
野依 智子	福岡女子大学国際文理学部教授
三上 和子	北九州市女性団体連絡会議
大久保 大助	NPO法人KID's work 代表理事
速水 豊	三重県立美術館館長
門田 彩	北九州市立大学文学部准教授
立石 洋子	北九州美術家連盟
筒井 卓也	西日本新聞西部本社事業部長
鈴木 大介	毎日新聞社西部本社事業部長兼営業部
梅林 繁喜	北九州商工会議所総務課長
海上 尚美	市民委員

（事務局）後小路 雅弘	北九州市立美術館 館長
上田 伸一	北九州市立美術館 副館長
三宅 智美	北九州市立美術館 普及課長
那須 孝幸	北九州市立美術館 学芸課長
阪上 壮一郎	北九州市立美術館 普及係長
重松 知美	北九州市立美術館 学芸課係長
香月 敬二	北九州市立美術館 普及課
奥田 亜希子	北九州市立美術館 学芸課

議事録（要旨）

事務局	議事の説明、傍聴者の確認（1名）、館長挨拶
報告1 文化庁「Innovate MUSEUM 事業」の採択と報告	
事務局	報告1についての説明
委員	全体でかかった費用が1198万円ということだが、それぞれの事業でかかった費用はいくらか。
事務局	ほとんどが委託料である。館内VR、高精細画像、レプリカの作成に800万円ほどかかっている。残りが空撮動画の作成である。
委員	企画展の折に（磯崎新建築作品の）動画を拝見した。パネルよりも動画は人の目を引くと思った。
委員	今回の試行に参加した児童のうち、美術館に実際に行ったという児童はどれくらいいるのか。オンラインでのミュージアム・ツアーには懐疑的だったが、今回実施している様子を知り、3Dで彫刻を動かすとか、今の子ども達には興味を持つと思った。デジタルだけではなく、実際の来館に繋がるというのが大事だと思っている。
事務局	今回1144名が参加しているが、そのうちの何名が実際に来館したかはわからない。ただし、アンケートで取り組みが来館に繋がると思うか教員に訊ねたところ、76%から肯定的な回答をいただいた。児童への美術館に行きたいと思うかという問いには67%が行きたいと回答している。今後、実際の来館に繋がっていくのではないかと期待している。
委員	半分以上が行ってみたいと答えたのは希望が持てる。ぜひ続けていただきたい。
委員	興味のある取り組みである。授業をするのは学芸員か。将来的に教員が授業をできるようにということで、そのためにどんな手立てをお考えなのか。
事務局	ミュージアム・ツアーの時から担当していたスタッフ2名で実施しており、1名は学芸員、1名は教員資格を持っている。来年度もこのスタッフで実施する。デジタルコンテンツのなかで動画は流すだけである。一番難しいのは作品を見ながらの対話型鑑賞であるが、誰でもできるように導入動画を作っている。
委員	美術作品が分かってないとできないとかそういうことではなく、美術作品を通してコミュニティができるというようなツールができたと理解した。
議題1 会長・副会長選出 議題2 令和7年度の取り組み内容及び評価指標について	
事務局	議題1についての説明
会長 菅委員、副会長 森山委員 委員全員異議なしで決定	
事務局	議題2について説明
会長	令和7年度の取り組み内容及び評価指標について、質問のある方は挙手をお願いする。まずは、作品・公開について質問はないか。

委員	多方面にわたって、必要な取り組みがされている。非常に優れた取り組みとなっている。収集について、寄贈は厳選して受け入れるということであろうが、購入も、予算が厳しい状況ではあるが、進めていただきたい。寄贈に頼っていると内容にあったコレクションはできない。すぐに成果が上がるものではないが、１０年、５０年先をみて必要なものを収集していただきたい。初期に購入したものが、美術館にとって重要なコレクションになっていることを学芸員は実感していると思う。 それは、展覧会事業にも言えることである。目標人数や入場料収入があったかは大事だが、入場者の多い展覧会でなくても、長い目で見たときに非常に意味を持ってくるものがある。地域に密着した企画展「鉄と美術」は大変、重要なテーマである。入場者は少ないかもしれないが、長い目で見て、地域に密着した展覧会を実施するのは重要なことである。収入など一時的なことではなく、意義のある展覧会を実施してほしい。
委員	美術館は、歴史的に八幡製鉄所と関わりがある。八幡製鉄所を主体とした「朱画会」という中央にも力のある団体があったが、年々、地元の力のある作家が亡くなっており、悲しい思いをしている。美術館にとって鉄とのかかわりは特徴といえる。八幡製鉄所というのは日本としても歴史的にも大きなポイントであり、それにかかわった作家がこんな作品を作ったと残すことは歴史的に意義があると考えている。
会長	重要なポイントであり、これまでもそのような収集などをしてきたと思うが、例があれば、説明してほしい。
事務局	八幡製鉄所、「朱画会」については、長年注目してきた団体、活動であり、展覧会では、章立てしてまとめて紹介したいと計画している。明治から戦前、戦後と市の発展とともに文化発展に影響を与えた要素であるので、取り組んでまいりたい。
委員	令和６年度にデータベースができたことは喜ばしい。７年度も内容を充実するということであるが、数値目標はあるのか。
事務局	データベースの公開については、５か年計画に基づき、今年度、大コレクションの展覧会にあわせて、人気の作品など中心に２４０点を公開した。著作権や予算もあり、今後どのように公開していくか検討しているところである。数値目標を挙げることはできないが、止まることなく進めていきたい。
会長	次に交流について質問・意見はないか
委員	オンライン・ミュージアム・ツアーは大変良い取り組みである。このツアーを体験した児童が実際に来館しているか、アンケートなどで把握できないものか。また、シニアのような来館が難しい人たちにも、老人ホームなどにおいて実施する機会があればよいと思った。
委員	「たんけんパスポート」は素晴らしい取り組みだが、このことで家族層はどれくらい来館しているのか。子ども達の来館意欲につながっているのか。 オンライン・ミュージアム・ツアーを４年生にしている経緯は何か。
事務局	具体的に「たんけんパスポート」が来館に繋がっているかは調査をしておらず把握していない。毎年約３０００人程度が利用しており、小学生の低学年は親も来ていると考えている。ただし、人数は延べ人数であり、同じ子供が何度も入っているという状況もある。 小学校４年生を対象とした理由は、ミュージアム・ツアーを小学校３年生で実施しており、昨年来館できなかった４年生を対象とすることで、美術館のツアーをすべての学年が経験できると考えた。また対話型鑑賞は素直に意見が出やすく、自分の言葉を言語化できるということ１０歳が適切であると言われており、１０歳である４年生を対象と

事務局	令和7年度予算で、教育委員会が「たいけん・まなび充実大作戦」という事業を始め、美術館に限らず、小・中学校でバスをつかって、色々な施設に行くことができる。オンライン・ミュージアム・ツアーが実際の来館に繋がるように促してまいりたい。
委員	オンライン・ミュージアム・ツアーは子どもの本音を引き出して良い取り組みだと思った。ミュージアム・ツアーの時には、ボランティアが解説に入っていた。ボランティアが解説する、意見を言うといった機会がなくなり、これまで培ってきた価値が失われるのがもったいない。ボランティアを育成する手立てはあるのか。シニア層を対象とした教育普及プログラムはあるのか。市民センターと連動して何かできることもあるのではないのか。
会長	ボランティアについては、美術館は創立当初から制度を作り、優秀なボランティアをたくさん育成している。大分市美術館も北九州市を参考にしている。ボランティアの育成についてとシニア層対象としたプログラムについて回答いただきたい。
事務局	ミュージアム・ツアーはボランティアではなく、有償のガイドが対応していた。一方、ボランティアによる一般向け鑑賞ツアーを毎週土曜日の午後に行っている。全国で初めてボランティアを持ち、長い歴史があるが、時代とともに、求められる役割やボランティアのモチベーションや方向性も変わっており、それに対応しながら、進めてまいりたい。 シニア層のプログラムについては、5か年計画に項目があり、市民センターの来館促進や出前講演などを実施している。老人ホームまでは至っていないが、今後研究してまいりたい。
委員	オリジナルグッズの開発は具体的なイメージがあるのか。デジタルでつながった子どもたちが来館するように、例えばガチャガチャだとかUFOキャッチャーといった、楽しめたり、喜んで持って帰れるようなものにするといったビジョンはあるのか。
事務局	今年度は50周年ということでトートバッグ、ファイル、ポストカード、金平糖を制作した。また、有名なフィギュアの会社から収蔵作品のフィギュアを仕入れて販売したところ、非常に好評で売り切れた。今後も人気の商品を販売していきたい。長期計画はできていないが、アンテナを張って、良い商品をそろえていきたい。オンライン販売なども研究してまいりたい。
会長	ミュージアム・ショップというのはあまり儲からないが、ヒット作品が出ると話題にもなり、教育普及にもつながる。続けて推進してほしい。
委員	大学のボランティアについては、北九州市立大学の地域創生学群に相談してはどうか。また、市民センターについては、出前講演だけではなく、センターのクラブや社会教育施設、男女共同参画センタームーブの登録団体など社会教育施設にも働きかけを行うとよいと思うが、そういった働きかけをする渉外担当者はいらっしゃるのか。
事務局	市民センター等との連携は普及課で行っているが、そのために人員をさける状況ではない。頂いたご意見である登録団体への働きかけはメールを使うなどして、検討してまいりたい。
会長	美術館と社会の連携は苦手分野ではあるが、つながっていく必要がある。
委員	リバーウォークの分館は今後どうなるのか。

事務局	分館は令和5年度末をもって休館している。分館は貸館的な利用があったが、そういった利用申し込みがなくなり休館に至った。まちなかにある市所有施設として、このままにしておくわけではなく、あらゆる可能性を否定せず、今後の活用を検討しているところである。
委員	オンライン授業やシニア層への普及など来年度の計画は今の時代を見据えたものになっていると感じた。 オンライン授業に参加した人は入館者として数えるのか。
事務局	オンラインでの参加は来館者としては数えない。年報などで実績を報告したい。
委員	シニア層への普及については講座に偏っている。ものを作ることが好きな人もいると思うので、高齢者対象のワークショップをしてはどうか。
会長	周辺の美術の森は彫刻も置いてあり、アプローチがよく、散策するのに適している。受付で彫刻のマップなどを置いているが目につかない。今後、この周辺の環境をアピールしてはどうか。
事務局	美術の森公園をもっと魅力的に取り上げられないか、動画撮影をしたものを館内で出すことなど検討している。新しい見方や楽しみかたが提供できないか検討している。
会長	オンライン・ミュージアム・ツアーの動画で美術館をドローン撮影したものを使っているのは素晴らしい。公園まで範囲を広げれば、全体の魅力としてアピールできるのではないか。
会長	ボランティア制度といい、北九州市立美術館は初期から素晴らしい活動をしている。その成果は大コレクション展に表れている。草間彌生の展覧会を初めて行った折も、集客や収入は良くなかったが、その成果として作品がコレクションされた。ドガやルノワール、モネもある。そういった伝統が積み上がり、この50周年を踏み台に新しい活動を開始している。懸案事項のデータベースも進んでいる。 来年度も引き続き、成果を期待している。
会長	異議なしということで、議案について事務局案を承認。以上で本日の議事を終了する。